



NEWS

1997.11.15 (平成9年11月15日)

発行：財団法人 骨髄移植推進財団

発行責任者：小池欣一(理事長)

編集責任者：清水 透(普及広報委員長)

〒160 東京都新宿区新宿2-13-12新宿ISビル8F

TEL 03-3355-5041 FAX 03-3355-5090

郵便振替口座：00130-2-609313



報道陣の取り囲む中、堅い握手。NMDPのクーリエ(搬送者)と出迎いの岡本真一郎財団国際委員長

特集
国際協力 PART II
ASIAN HEART
ひとつのアジアへ

9月24日

14:45 / ホノルルから骨髄液が成田空港に到着。

NMDPを介してハワイ在住のアジア系米国人から

日本の患者さんに提供されたもの。

日米骨髄バンク正式提携後、初の日本での移植になる。

16:50 / 空港から東京都内の病院に搬送され

ただちに必要な成分に分離処理。

20:15 / 患者さんに輸注(移植)。

(50歳の男性・骨髄異形成症候群)

CONTENTS

特集・ひとつのアジアへ	2 ~ 5
特別寄稿 吉永小百合さん	3
NMDP 年次総会、10周年記念式典参加訪問	5
命のかがやき ホセ・カレラス氏他	6・7
DATA REPORT / 移植状況・成績第2報	8・9
DATA REPORT / ドナーフォローアップ	10
コーディネイト委員会から	11
INFORMATION	12

日米骨髄バンク提携後 初の骨髄液が成田へ

特集

国際協力 PART II

アジア太平洋骨髓バンクフォーラム 97.10.5 ひとつのアジアへ

ASIAN HEART 骨髓バンク・・・それは愛のかけ橋

第1部 パネルディスカッション

98年4月、台湾と正式提携 韓国と仮提携に向け合意

3時間にわたる 実務者会談

フォーラム開催に先立ち同日午前中3時間余にわたって「韓国・台湾・日本骨髓バンク実務者会談」が開かれ、それぞれのバ

10月5日、兵庫県立先端科学技術支援センター（西播磨科学公園都市内）で全国から約250名の参加者によりフォーラムが開催されました。
第1部、第2部のパネル討議では台湾、韓国の骨髓バンクの代表者、シンガポールからの移植患者、オーストラリアからのドナー体験者、日本からの提供で移植を受けた米在住日本人、在日韓国人のドナー登録者の方々など多彩なパネリストを迎え、今後の国際協力に向けて意義あるフォーラムとなりました。



10月4日、和やかなレセプション風景

第1部パネルディスカッション



参加国
韓国・台湾
シンガポール
オーストラリア・日本



司会 正岡 徹
大阪府立成人病センター病院長

ンクの現状をよく理解し合うこと、今後の協力関係の推進にあたっての問題点、課題を把握するために協議が行なわれました。
一衣帯水の関係にある3カ国の骨髓バンクの代表が同じテーブルにつき、相互協力の話し合いが行なわれたのは初めてのことで、協議ではHLAタイピングの方法、患者の適応や審査方法、ドナーの基準、プライバシーの保護、患者負担金や財政の問題にいたるまで幅広く率直で真剣な話し合いが行なわれました。

各国バンク事情と ドナーリクルート

台湾 登録は、日に特別会場を設置してのドライブ方式、常設の受け付けはない。台湾各地での大規模キャンペーンでは1回に3000～5000人の登録があるの

第1部パネルディスカッション パネリスト

韓国

Hahng Lee
企画委員長

台湾

Wen-Ping Tseng
主任委員

台湾

Cheng-Kuang Shaw
執行秘書

オーストラリア

Mr. Phillip Snitch
骨髓提供者

シンガポール

Mr. Eng Keen Huat
骨髓移植を受けた患者

日本

岡本真一郎
(財)骨髓移植推進財団
国際委員会委員長



注 韓国骨髄バンク：社団法人韓国骨髄銀行協会 - Korean Marrow Donor Program (KMDP)
 注 台湾骨髄バンク：慈濟會台湾地区骨髓捐贈資料中心 - Tzu Chi Taiwan Marrow Donor Registry (TCTMDR)

特別
寄稿

伝えたい、願いをこめて

公共広告機構（ＡＣ）の骨髄バンクキャンペーン、親でさえ一致しなければわが子に骨髄液をあげることはできない」がスタート。ＣＭには、吉永さんにナレーターとして特別出演頂いています。テレビ・ラジオでの優しい声は、何よりの支援です。



女優 吉永小百合

出演した映画を通して、私は白血病と深く関わってきました。
 一本目は、愛と死の記録。小さい時に広島で被爆した青年が白血病で倒れ、恋人は必死に彼を励まし看病します。でも青年は死を迎えてしまふ。重い、悲しいテーマでした。
 もう一本は、『夢千代日記』です。母親の胎内で被爆した若者夢千代。病に苦しみますが、まわりの人々に限りなく優しく接する人でした。
 今年の六月、私は原爆詩集を朗読したＣＤ『第二章』を出しました。核兵器による悲劇が二度とくり返されないよう願いをこめて……。
 日本には、白血病に苦しむ方達が沢山います。でも、不治の病と云われてきた病気が、骨髄の移植によって治るようになったので

一人でも多くの方が骨髄移植のドナーになれば、多くの患者さんが救われる。今回骨髄バンクのキャンペーンでナレーションを担当させて頂き、祈りをこめて詠みました。ＣＭをみて、骨髄バンクのことを沢山の方々に知ってもらい、ドナーになって頂きたい、強くそう願っています。



ＡＣの 97骨髄バンクキャンペーン広告
 新聞の紙面やあなたの街の街角におめえします



台湾、韓国の骨髄バンクの状況

1997,8,31現在

	台湾	韓国
人口	約2,150万人	約4,570万人
設立年月	93年10月	94年3月
ドナー登録者数	151,163	1) 12,864
ドナー登録年齢	17～55	2) 18～40
ドナー募集方法	3) ドライブ方式	ドライブ・申込み方式
患者登録累計数 (内、国内患者数)	2,955(約480)	1,170(293)
国内患者の 適合率	58%	26%
移植例数 (内、海外への提供)	70(17)	15(2)

- 1) 韓国にはカトリック医科大学聖母病院にも1万人のドナーバンクがある。
- 2) 韓国では、ドナー登録受付は40歳まで、実際の提供は55歳までである。
- 3) ドライブ方式とは、テレビ・ラジオ・新聞や街頭宣伝でドナー登録を呼びかけ、病院や公民館等で一斉にドナー登録受け付けする方式。1回(数日間)に、数百人～数千人のドナー登録が行なわれている。

で、HLA検査は米国に依頼していた。現在、国内の検査体制整備に取り組んでいる。すでに米国、香港、シンガポール、オーストラリアと正式提携、日本との提携に期待している。

韓国 2000年までに6万人のドナー登録をめざしている。今年よりバンクが寄付の免税団体として認定されたので、寄付キャンペーンを始める予定。プライバシーの保護、適正なコーディネイト、質の高い医療など日本を参考にしていきたい。

オーストラリア ドナー登録数109298人、移植202例、海外提供64例。移植100例キャンペーンで例外的にスニッチさんは患者と対面し反響を呼んだ。再発した患者に2回目の提供もしている。アポリジニーなど少数民族の登録者の拡大が急務となっている。

シンガポール バンクはボランティア組織によって運営。現在ドナー登録数18000人、移植32例、海外提供2例。財政面では今までに500万シンガポールドルの募金が集められているが、3万人いるドナー登録希望者のHLA検査費用とバンクの効率的な運営のために1500万ドルが目標とされている。

全米骨髄バンクとの国際提携から半年がたち、順調にその成果が生まれつつあります。それと同時に、同じ民族同士であるアジア諸国との国際協力の取り組みが求められています。台湾骨髄バンクとは、本年2月の合意に基づき、すでに4月から試験的な相互検索が開始されており、アジアがひとつのネットワークへ進もうとしていることを会場は実感しました。

「生きたい」「思いは同じ」 国や民族のちがいはあっても

亡くなった命が
遺したものに

第2部の幕開けには病に倒れ亡くなった方たちへ黙とうが捧げられ命の大切さ、貴重な医学的データなど遺されたものの大きさに感謝と敬意を表しました。



第2部の幕開けには病に倒れ亡くなった方たちへ黙とうが捧げられ命の大切さ、貴重な医学的データなど遺されたものの大きさに感謝と敬意を表しました。

福田 寛さん 移植を受け退院2カ月後、元気になった喜びと感謝の気持ちを述べ、これまでの経過を語りました。「あの時、日米が提携していたら、もう少し不安が少なかったかもしれない」国内になかなかドナーを見いだすことができないでいる患者にとって国際協力が進むことは大きくチャンスを広げる希望だという体験談でした。

横田 豪雄さん バンクニユース Vol.10でも紹介したとおり、日本から米国へ初の提供骨髄による移植を受けた米在住の日本人ドナーと患者の対面がオープンな形で行なわれているアメリカの状況にふれ、席を借りて日本のドナーに感謝の気持ちを表しました。また、これからは日米のバンク普及のために、在米日本人の立場でできることをしていきたいということでした。

鄭 順（チョン・スニル）さん アトラクションで民族楽器を演奏したアプロの会のリーダーでもある。当日出演したメンバーの中に、韓国人はただ一人であることから、国や民族を超えて心ひとつに合わせることは特別なことではない。ドナー登録

ひろがれ、国際協力の輪

10月7日、名古屋第一赤十字病院でインタビュー

宮城県仙台市 本田隆一さん 39歳

「えっ？これで終わり！」本田さんへの骨髄移植は、わずか15分ほど。NMDPで見つかったアジア系ドナーから提供された骨髄液は血液型が違いため、赤血球などを分離し、造血細胞だけ注射器での移植だった。日米骨髄バンク正式提携前のことで、国内唯一のNMDP認定病院だった名古屋第一赤十字病院で移植を受けた。それまでの道のりを思えば、あっけなく感じられた。昨年、11月のことだった。

コンピューターのハードのメンテナンスの仕事について日本全国、時には海外へ、月のうち半分は出張という忙しさで、10年やってきた。健康には自信があったものの、身体に変調を感じ、検査の結果「急性リンパ性白血病」と診断された時は、さすがに覚悟した。東京から実家の仙台に戻って入院。化学療法でいったんは退院したが、再発。発病時患者登録していたが、適合ドナーは見い出せないま

ま2年が過ぎていった。「母には本当に迷惑をかけた」日米バンクが提携した今なら、地元の病院で移植が受けられ「付き添いも少しは楽だっただろう」と本田さんは言う。骨髄バンクの国際協力の輪が広がって、いろんな意



味で患者・家族の負担が軽くなる「よかったですね。」

現在は名古屋第一赤十字病院への検査通院は月に一度になった。片道5時間かかるが間もなく仕事への復帰をめざしていたが、希望に満ちた道のりである。

ひとりひとりの 国際協力

したのも、ごく自然に人間として当たり前のことと思っていると話しました。

黒田浩嗣さん 地元青年会議所のリーダーとして、これからも骨髄バンク運動に協力していきたい。全国的組織の青年会議所が今後どういう形で活動しているか考えたい。各地域のボランティア団体の方からも積極的に協力を呼びかけてほしいと話しました。



司会 清水 透
骨髄移植推進財団
普及広報委員長

福田 寛
骨髄移植を受けた患者

黒田浩嗣
一般相生市民



日米提携後 初の協力会議開催

財団国際委員長 岡本真一郎



ミネアポリス NMDP本部ビル

10周年記念式典は総会前夜に政府機関や血液事業関係者、各国代表等多数に参加して開かれ、NMDPの設立に深く関わってきた人々のスピーチ、ドナーと患者との対面という形式で行なわれ、簡素ながら心暖まる催しでした。NMDPの年次総会は、骨髄バンクに関連する各分野ごとに、医療・検査関連の発表・討論会や担当事者の会合・研修会等を開催する形式で、発表内容も非常に多彩であり、関係者の交流も国際的なものです。特に注目される点は、NMDPが今後、HLA A・B座の検査方式をDNA検査に変更する予定が説明され、

NMDP年次総会および10周年記念式典に参加
9月26日、28日の3日間にわたるNMDP年次総会が、アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス市で、世界23カ国から約800名の参加で開催されました。日本骨髄バンク（JMDP）からは、私と財団富田事務局員の2人が参加しました。



上.10周年の歩みコーナーにて(NMDPのコーディネーターと)
下.各国骨髄バンク代表の懇親パーティーにて

また、来年から臍帯血バンクとの統合運用を検討しており、NMDP基準に合致する臍帯血バンクに対し、参加意向を打診するとの報告でした。

部（コーディネーションセンター）を訪問しました。日本を出発する前日の9月24日に、ハワイからの提供による移植第1例が行なわれ、10月も数例の移植予定がある等、日米提携が予想以上に順調に推移している背景もあって、とても和やかな雰囲気の中で問題点や課題について率直な意見交換を行ないました。今後の両バンクのスムーズな連携にとって有意義な協議となりました。

世界骨髄バンク協議会・WMDAに正式加盟へ
9月28日、NMDP総会に併せてWMDA（注1）の総会が開催され、各国骨髄バンク代表が一堂に会して交流を深めました。今後、WMDAが世界的組織として運営されることが報告され、また、日本は台湾とともに、WMDAに正式加盟を表明し、世界の仲間入りを果たしました。

注1 World Marrow Donor Association 国際間の骨髄移植に関するガイドラインの作成、患者の適応基準、ドナー等に関する基準、移植施設と採取施設に関する基準づくり等を行なっている世界各国の骨髄バンク代表者による協議機関
注2 Bone Marrow Donors Worldwide 各国骨髄バンクの情報収集ネットワーク、ドナー登録者のHLA種類別データを定期的に集約し、適合ドナーがどこに居るかを知るための照合システムを構築している機関

た。一人一人が人間として分かち合うことなしに成立しない骨髄移植の世界が提起するもの、さらにその上に立ってこそ進められる骨髄バンクの国際協力の意味を語り尽くして、説得力あるメッセージでした。

「生きたい」という思いは民族に関係なく人間として同じだと思うから、その思いに応えることができる自分になりたい、街にしたがう。骨髄移植を必要とするすべての人に平等にチャンスがあるべきだと思っただけです。在日コリアンの白血病の子どもにも、中国のルーツをもつ子どもにも、そして、日本人のなかでは珍しいHLAの型をもつ白血病患者の子どもが、コリアンのドナー登録者のなかからドナーが見つかる可能性もあるのです。



韓国の民族芸能・トッカピ子供会による五面太鼓、松原アプロの会によるサムルノリ・韓国の四つの打楽器（写真）の演奏が披露されました



しゃぼん玉展・白血病に家族を奪われた女性たちの作品展、大ホール橋接ギャラリーで

第2部パネルディスカッションパネリスト

横田豪雄（在米日本人） 鄭 順一（在日韓国人）
骨髄移植を受けた患者 ドナー登録者



国際協力事業 状況報告

97年4月～9月

日本	アメリカ	予備検索116件（適合58件）	正式登録51件
アメリカ	日本	照会22件、正式登録4件（適合2件）	
日本	台湾	予備検索46件（適合1件）	正式登録8件
台湾	日本	照会0件、正式登録0件（適合0件）	

がやき

「命の分かち合い」のなかに
はひとつだということを実感します。
のなかに、命がかがやく時
かな幸福感の訪れが...

映画「友情 - Friendship」
98、3月劇場公開予定



女子中学生役に、俳優・三船敏郎氏の愛娘三
母親・田中好子さん、父親・平田満さん、
柳葉敏郎さん他のキャスティング、メガホ
台監督で、この7月にクランクインした。
療のために東京に転校してきたあゆみ。懸命
あゆみにクラスメートたちが精一杯の友情を
と驚くシーンとは一体？冒頭とラスト、スク
ばいには、咲きこぼれるコスモスの花が風にゆ
時、観る人の胸は、キュン！

自主上映映画「金色のクジラ」
引き続き全国展開へ

日神奈川県教育文化ホールで上映会が催さ
静岡県浜松の風土・文化・人情が豊かに盛
まれたこの作品は、制作段階から市民レベ
の支えを得て、96年秋公開直後から自主上
の形で全国を回り、各地域の教育委員会や
ボランティア団体の後援で、これまでに延べ
観客動員数24万人を数えている。骨髄移植・
の尊さを主テーマに、兄弟家族のきずなや
と人、地域のつながりについて改めて考え
せる本映画はすでに来年の上映日程もぎっし
息の長い活動を...と関係者。

感動、コンサート

6月9日、東京・オーチャードホール。ホセ・カレ
ラスのテナーに聴衆は酔いしれた。白血病を骨髄移植に
よって克服し、奇跡のカムバックを果たしたホセ。その
歌声にこめられた「祈りと願い」は同じ病氣と闘ってい
る患者さんだけでなく、全ての聴衆の心を深く捉えたに
ちがいない。このチャリティーコンサート「いのちのボ
ランティア」はホセ・カレラス国際白血病財団と当財



記者会見風景

団の共催。収益金は全額、両財団に寄付された。同企画
は今回が2回目、初回開催は93年2月。

92年秋、高久史磨財団副理事長は国際線の機内で
偶然雑誌掲載記事を目にした。ホセが難病を克服したこ
とへの感謝から「ホセ・カレラス国際白血病財団」を
設立。白血病の治療・研究を援助する活動を続けている
というものだった。それを聞いた熱烈なオペラファンの
森真由美・前普及広報委員長がホセに直接、協力のお願
いを手紙にしたためたところ、快く応じてくれた
といういきさつで実現したのだった。

来日記者会見・5月23日

骨髄バンクの意義をアピールし「コンサート
開催への感謝と喜びを感じ、白血病の治療
研究を援助するための活動は、今後も
ライフワークとして続けていき
たい」と語った。

病院お見舞い

翌24日、日本大学医学部附属
板橋病院へ。まもなく骨髄移植
を控えたA子ちゃん・8歳をお
見舞い。ホセからクマのぬいぐ
るみ、A子ちゃんからは折紙の
プレゼント交換。「次のコンサート
は観にきてね。オレンジジュースを
飲みながらデートしましょう」温かいホ
セの励ましにA子ちゃんは大喜びだった。



小児科病棟で
A子ちゃんと対面

上記コンサートは厚生省の後援、中外製薬株式会社の協賛、電通、電通Y&R、IMG Tokyo、
NHK、テレビ朝日、ワーナーミュージック・ジャパンの協力で開催されました



プロフィール
音楽家・世界三大テナーの一人
1946年 スペイン・バルセロナ生まれ
1968年 オペラ・ルクレツィア・ボルジア・デビュー
1987年 白血病発症、同年骨髄移植を受ける
1988年 ホセ・カレラス国際白血病財団設立

祈りと願いを歌にこめて

ホセ・カレラス

命のか

国境を超え、民族を超えた
ほんとうに、もとはといえば人類に
つないだ手と手のぬくもり
わたしたちの胸に、静

ど、観て、感じて！

映画「友情」「金色のクジラ」

テーマ
骨髄移植



主人公の船美佳さん、中学校教師は和泉聖治、白血病治療に病と闘う表すアクリンって、その時

観客動員
延べ24万人



7月17日、上映された。観客動員延べ24万人、命を救った。その時

パンフレットを会場へ

文化祭の展示・バンクコーナー



シェア、熱い思い受け継いで

聖カタリナ学園・光ヶ丘女子高等学校
愛知県岡崎市

骨髄バンク運動を始めたのは5年前。ニュージーランド留学先で病に倒れた本校卒業生、TV画面にアップになった涙顔...遠藤充著「21歳の別れ」の主人公・中堀由希子さんの支援活動に、生徒会を中心に全校をあげて取り組んだのだった。移植によって救われる命がある「中堀さんのメッセージを引き継いで人々に伝えよう」先輩たちの熱い思いは今も確かに生き続けている。

95年には、米画家のドナーが少女・患者のために描いた骨髄移植をテーマにした絵本「凍った炎」を1年がかりで翻訳、出版。昨年末から今年にかけて、日本で移植を受けたロシアの青年イリヤ・カタエフさんのために支援や募金の活動をした。秋の文化祭には毎年



左からシスター・コンセプション、長坂尚美 3年生 さん、平野ゆい 3年生 さん

「骨髄バンク」コーナーを設けて、説明書きを貼りだしたり、チラシを配るなどして、訪れる人たちに理解と協力を呼びかける。12月にはクリスマスページェントで、同じような活動をする。地域のバンク推進運動に関係した催しには、準備や後片付け、受け付けやチラシ配りなどに協力を惜しまない。校訓「奉仕」の精神に沿った自然な行為だという。誰かが誰かに与え下すのではなく、「分かち合うこと・シェアなんです。奉仕の精神は」生徒部長のシスター・コンセプションは「命の分かち合い、骨髄移植の世界を知るとはわたしたちを豊かにしてくれます」そう、静かに言った。

活動は現在「エンジェル部」「メルヘン部」の部員で同時にインターアクトクラブ（International Action Clubの略。奉仕と国際理解に関心を持つ14～18歳までの青少年の世界的団体）に所属する62名が中心。バンク運動以外にも、養護施設や老人ホームの訪問、点訳など、1年を通して様々なボランティア活動をしている。

取材 小玉 徹子

DATA



平成3年12月、当財団が創設され日本赤十字社の協力により、日本骨髄バンク事業が開始されました。この12月には満6年を迎えます。骨髄バンク事業の現状は、本年9月末現在、ドナー登録現在数87,297人、患者登録累計数5,676人、骨髄移植累計数1,272例になりました。ご協力賜りましたすべての皆様に心から厚く御礼申し上げます。

HLA適合患者・ドナーの状況 (97年10月6日現在)

患者の状況		ドナーの状況	
患者登録受付数(累計)	5,677人	ドナー登録受付数(累計)	96,334人
患者登録現在数	1,603人	ドナー登録現在数	87,297人
HLA適合患者数(累計)	4,306人	2次検査実施ドナー登録現在数	71,524人
		HLA適合ドナー候補者数(累計)	17,425人

患者登録現在数は、患者登録累計数から登録取消された患者数および移植実施患者数を引いた数です。患者さんのHLA適合率は75%(累計)です。

非血縁者間骨髄移植実施数

(93年1月～97年9月末の累計)

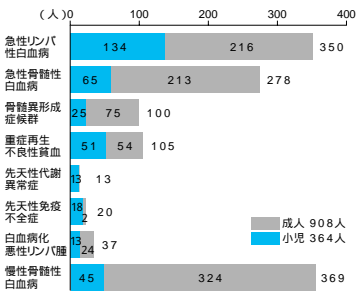
93年	86件
94年	183件
95年	341件
96年	368件
97年(9月末まで)	294件

非血縁者間骨髄移植の状況 1,272例

(97年9月末現在)

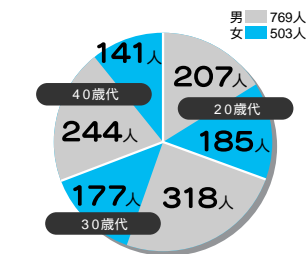
移植患者の状況

移植患者疾患別

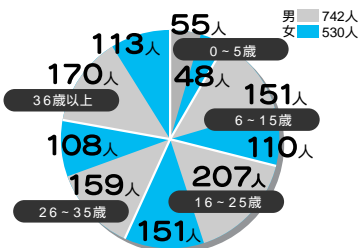


提供者の状況

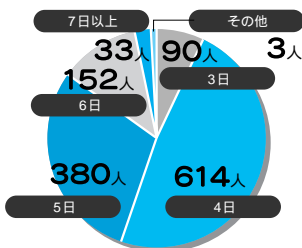
骨髄提供者年齢男女別



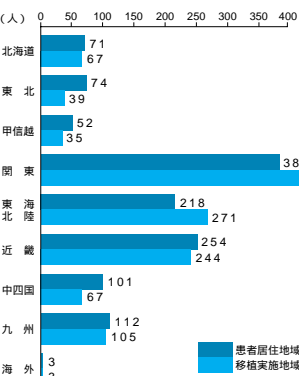
移植患者年齢、男女別



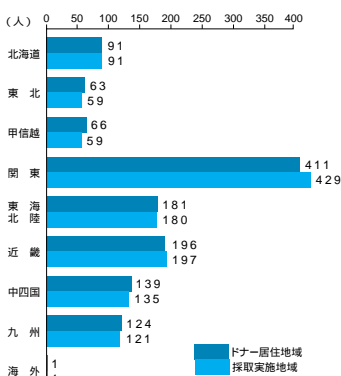
骨髄提供者の入院日数



移植患者居住地および移植実施施設所在地別



骨髄提供者居住地および採取実施施設所在地別一覧



THANKS TALK

小学6年生

山下奈津子ちゃん(12歳)



最高、おいしい。お母さんの手作りおやつ

歩いて25分はかかる学校まで、毎日元気に通っている。4月に転校してきて半年、もう何人も友達もでき「学校は楽しい」と奈津子ちゃん。今年の夏はプールにも入った。秋の運動会には、スウェーデンリレーの2番手を走り、組み体操も頑張って、応援の家族は大喜びした。

4年前に慢性骨髄性白血病と診断され昨年5月に移植を受けたことが「ウソのよう」。退院2カ月後、かつらを付けて登校の時も「いじめられはしないか」お母さんの心配をよそに本人はケロリとしたもので、遊ぶのに夢中になってかつらがずれたまま帰ってきたり「こだわらない性格が健康回復にもプラスに働いたんじゃないかな」とお母さんは笑う。「元気になって良かったことは、おやつがおいしいこと」奈津子ちゃんは、香ばしく焼き上がったお母さんの手作りのマドレーヌをペロリとたいらげた。

(兵庫県川西市)

左から真由佳(姉)ちゃん、奈津子ちゃん、真紗代(母)さん

DATA

移植成績 第2報

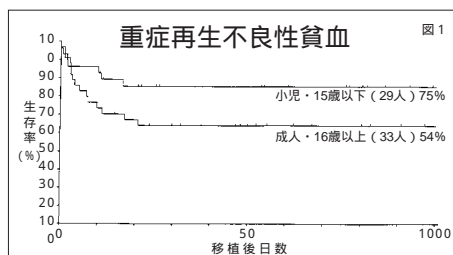
非血縁者間骨髄移植の成績

データ管理委員会

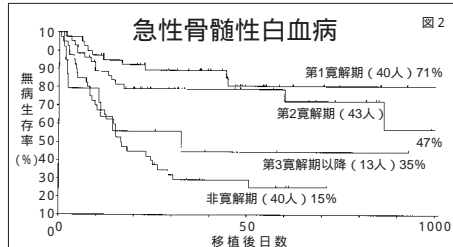
昨年に引き続き、日本骨髄バンクを介した骨髄移植の概要を報告いたします。今回の報告は93年1月から96年3月までに実施された移植712例のうち解析可能な667例を、昨年10月1日付けで解析したものです。日本骨髄バンクを介した移植例数は、1昨年より年間300例を超え、その後も着実に増加を続けており、アメリカに次ぐ移植件数(年間数)となっています。その移植成績(生存予測率)も、欧米と比べても優るとも劣らないものです。

移植疾患の内訳/ 慢性骨髄性白血病 210例 急性骨髄性白血病 137例
急性リンパ性白血病 163例 重症再生不良性貧血 62例
骨髄異形成症候群 44例 先天性疾患 44例 白血化悪性リンパ腫 7例

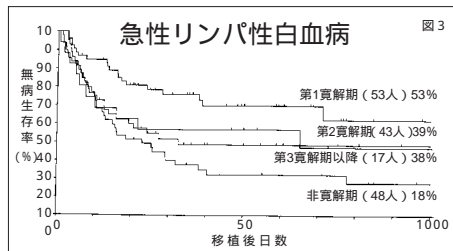
疾患別の移植成績(生存予測率)



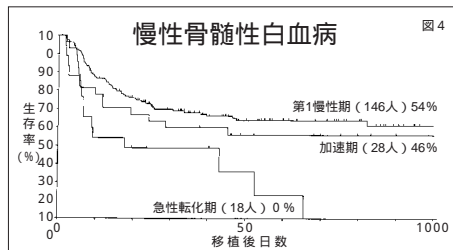
重症再生不良性貧血: 発症から長期の治療をしたリスクの高い症例が多い中でも、小児75%、成人54%と比較的良好な成績を示しています。(図1)



急性骨髄性白血病: 成人の初期の良い状態(第1寛解期)では、血縁者間移植と同様の75%の成績であり、小児では第1・2寛解期とも良好な成績を示しています。(図2)



急性リンパ性白血病: 第1寛解期では、小児73%、成人50%の成績です。(図3)



慢性骨髄性白血病: 発病後の初期の安定した状態(第1慢性期)と、年齢も若い方の生存成績が高く、病気がやや進んだ加速期でも比較的良好な成績を示しています。(図4)

先天性(遺伝性)疾患: 血縁者間移植と同様に、約80%の良好な生存率です。(図なし)
骨髄異形成症候群/白血化悪性リンパ腫: 症例数がまだ少なく、病状の悪化した症例が多いため、評価・報告は次回とします。

THANKS TALK

美容師

白水 豊さん



ハサミを持つ手はすばやく、みる間に「髪質や頭型に逆らわず自然なカット&スタイル」に仕上がっていく。

白水豊さん(31歳)といえば、骨髄移植を通して命の支え合いを呼びかける「いのちのボランティア-骨髄移植」のドキュメントビデオに登場した患者さん本人だが、移植から3年目、今は服用しなくても薬も一種類に減り、めったに風邪もひかなくなった。去年の10月、現在的美容室のオープンと同時に美容師の仕事に完全復帰。「とにかく仕事が楽しくて」お客さんも少しずつ増えはじめた店を大いに盛りたてるかわら、モード誌にオリジナルヘアスタイルを発表したりカットコンテスト出場を考えたり、毎日が充実している。ビデオにも登場した職場の先輩、仲間の理解に恵まれ、のびのびと仕事ができることが「何よりの幸せ」と笑顔になった。

(東京都)

笑顔でお客様と対応する白水さん
(写真最左)

バリバリ働いてます。仲間の理解に恵まれて

移植後の死因(症例数)

複数の原因がある場合は、それぞれに計上
GVHD 69 出血 34 再発 48 肝不全 26
間質性肺炎 46 肝中心静脈栓塞症 18 敗血症 38
生着不全/拒絶 17 腎不全 38 その他 73

今後の非血縁者間骨髄移植の成績の向上について

- HLA型(DNAレベル)の適合が重要であり、より適合するドナーを選択するためにドナープールを20万人規模に早急に拡大する必要がある。
- 患者さんの病態が悪化する前に移植ができるよう、迅速なコーディネートを行なうための骨髄バンクのシステム化、ネットワーク化を早急に構築する必要がある。
- 非血縁者間骨髄移植治療では、急性GVHDの発症率が高く(60~80%)、そのうち1/4が重症化しているため治療法の改良が急務であり、また、感染症等の合併症対策が大切である。



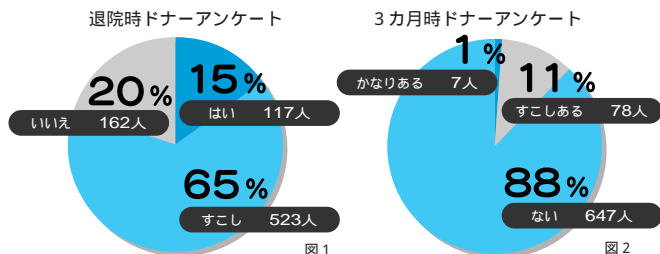
ドナー安全委員会では骨髄ドナーの安全に関わるすべてのことを麻酔医、弁護士、輸血専門医、血液専門医、コーディネーター委員で検討しています。

骨髄提供後の痛みと日常生活復帰について

ドナー安全委員長 秋山祐一

骨髄採取前の自己血保存の際、ドナーの方には十分な休憩が必要です。バイクなどで来院しないようお願いいたします。特に、献血経験のない方や女性で貧血の基準をこらうじてパスされている方は、自己血採血後ふらつきたりすることがありますので充分休憩時間をとるよう注意して下さい。骨髄提供後の痛みの程度はドナー登録者にとって大変気になるところと思います。1997年1月までに回答された約800人の採取48時間後の自覚症状(図1)、採取3カ月後の自覚症状(図2)、日常生活復帰に要した日数(図3)を説明します。

骨髄を採取した場所の痛みはありますか？

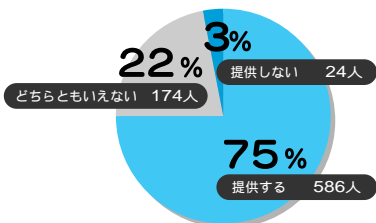


コーディネーターが直接面接

初期のドナー調査は1~2カ月時

採取48時間後(直接面接)では、痛い・15%、少し痛い・65%となっています。日常生活復帰に最も関連しているのが痛みの有無です。ほぼ1週間以内に通常に戻り、ある程度痛みはあるが、日常生活に大きな支障はないという回答が大半。復帰に7日以上要したのは約15%となっています。肉体的負担の大きい仕事に従事している方や極めて肥満の方はやや遅れる傾向ですが、大きく仕事・日常生活に影響が出ているドナーは1%前後です。

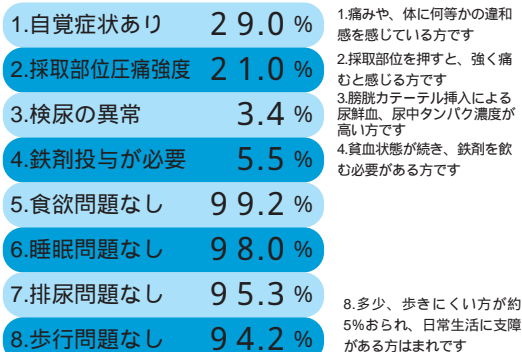
もう一度提供を依頼されたら、どうしますか？



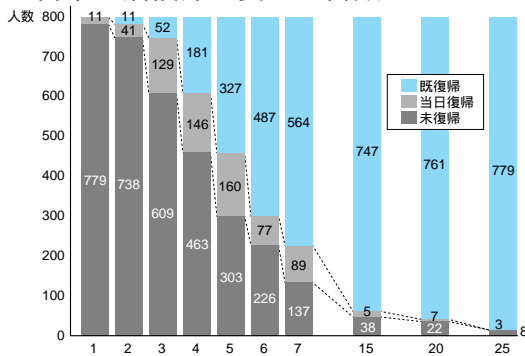
アンケートへのご協力に心から感謝いたします。これからも、ドナーとなられる方、提供された方の安全と健康のために全力を尽くしていきます

退院後の健康診断時のドナー健康状態回復状況

以下は骨髄提供約2~3週間後に実施の健康診断(集計・1,005例;1997年7月まで)の結果です。一部のドナーの方は受診する意志がなく、健康診断を実施していないケースもあります。



日常生活復帰に要した日数



コーディネーターはドナー退院後も自覚症状がなくなるまで、電話によるフォローを続けています。

わたしも...

ドナーになりました

下関市長 江島 潔さん 40歳



登録した92年当時は大学の教授だった。下関で開かれたシンポジウムに参加したのがきっかけ。「日本の人口を以てすれば10万人登録は容易ではないか？」質問したことを覚えている。95年の初当選からは、登録したことを忘れるほど多忙な毎日。昨年の秋、適合の通知を受け「何とか責任を果たしたい」とどうにか日程調整し、無事採取。退院2日後には地区ごとの文化祭を観て回った。

今年の9月、市の「バンク推進シンポジウム」で体験を語り、講演の様子は毎日新聞などマスコミにも報道され大きな反響を呼んだ。公表して改

めて10万人の重みと、そのためのPRの大切さを痛感。「生きているうちに提供できる？骨を削るのではない？」今では当然と思う質問を受けることが驚くほど多くなった。これからも、機会あるたびに「提供の実際」を伝えていこうと思う。

バンク国際化の話題に「韓国の釜山、中国の青山とは姉妹都市。日・中・韓のトライアングルが輪になれば、東アジアの玄関口・人口26万人の下関がお役に立てることがあるでしょう」と語った。

ドナー登録してます

ABS秋田放送・アナウンサー 丹内 モモコさん



ドナー登録から待ち続けて3年「提供可能年齢、タイムリミットまで後3年」と嘆く。なお

のこと「どんどん若い人に登録してほしい」。

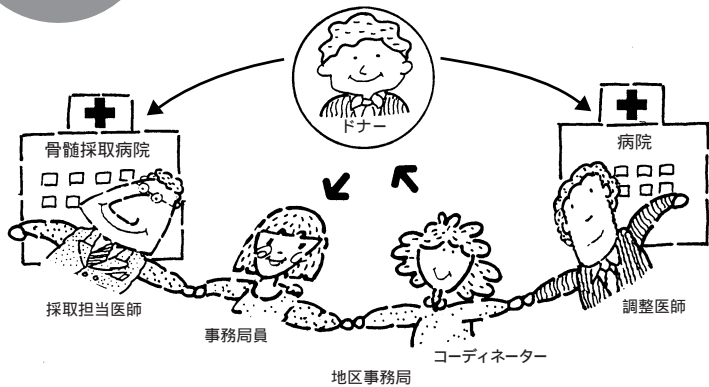
6年前、街の話題を取材に行ったのがきっかけで「骨髄移植」のことを知った。脇に蛍光ペンキで「SOS5万人！」と書いた軽自動車走っている。友人の子どもが白血病にかかり、移植を必要としている。骨髄提供を呼びかける美容師・菅 早苗さんの車だった。県庁へ陳情に行ったり、マスコミへ働きかけ記者会見を開く、菅さんの驚くべきパワーに患者・家族の切実な思いを見たという。

一人の美容師さんの起こした運動はやがて「秋田県骨髄提供者を募る会」結成へつながり、骨髄バンクが設立された現在も活動は引き継がれている。その流れを見てきた丹内さんは、これからも会のイベントやシンポジウムの司会ボランティア参加するなど「ずっとバンク活動に関わっていこう」と思っている。「ドナー登録者OBになってもね」と... (秋田県秋田市)

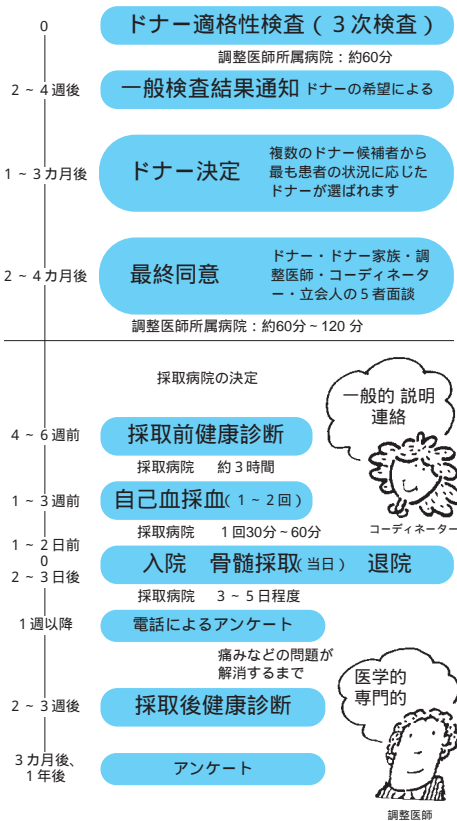
コーディネーターとは

コーディネーター委員長 森島泰雄

骨髄提供希望者(以下ドナー)と骨髄移植希望患者との連絡調整を「コーディネーター」と呼んでいます。ここでは、ドナー側からのコーディネーターについて説明いたします。



ドナー適格性検査(3次検査)以降のスケジュール



患者さんとHLA型が適合し、ドナー候補者の1人に選ばれますと、財団よりドナー適格性検査(3次検査)のご案内をお送りします。ドナーの方の健康状態、提供の意思や家族のご理解について伺います。(ご家族の同意は必ず必要です。早い段階からお話し合ってください)

ドナー適格性検査(3次検査)へと進みます。それぞれのドナーの方に、担当コーディネーターと調整医師が選定されます。コーディネーターはドナー候補の方やご家族の方と、担当調整医師、地区事務局、採取病院との連絡調整を行います。

コーディネーターはドナー適格性検査(3次検査)や最終同意の面談の準備や説明、採取病院での健康診断や入院時に伺います。

調整医師は、コーディネーター中のドナーの適格性判断や採血、医学的質問への対応説明を担当します。

コーディネーターのスケジュールは、左表の通りです。提供までの日数や、それぞれの所要時間は、個々の例により異なりますので、大まかな目安とお考えください。ドナー適格性検査(3次検査)を受けてから骨髄採取までは平均5カ月ほどかかります。

コーディネーター委員会とは?

現在全国で155名のコーディネーターが調整医師とともにドナーコーディネーターに従事しています。ドナーの方に直接説明し同意について伺うとともに、骨髄採取の後までフォローアップを行なっています。全国8地区の地区調整委員会の下で地区事務局員と三位一体となり、ドナー側の立場で確実迅速に進めるといった業務を担っています。

コーディネーター委員会は各地区委員会・地区事務局員・コーディネーターの代表者で構成されており、1~2カ月に1回定期的に会議を開催しています。コーディネーター委員会の役割は、全国どこでも質の高いコーディネーターができるように、コーディネーター全般を束ねることです。患者さんとの橋渡し、調整が必要であり、コーディネーター委員会では、中央事務局を介して関わっています。

一昨年の春から専任のコーディネーターが活動しています。この仕事は日本では新しい領域のものですが、日々の経験を生かして日本の風土に根差した、よりよいコーディネーターシステムができるよう、これからも一層努力してまいります。

読者とバンクのQ&A

Q 採取する時全身麻酔と聞いていますが

A 麻酔は原則として全身麻酔で行ないます。特別な事情により腰椎麻酔(または硬膜外麻酔)で行なうこともあります。麻酔中は定期的に血圧を測定し心電図モニターなどをとりつけて麻酔医が厳重に監視し続けます。麻酔中にドナーに緊急の処置を行なう必要が生じた時は直ちに骨髄採取を中止し、適切な処置が行なわれます。

Q 入院は必要なのでしょうか

A 採取日の1~2日前に入院し、採取後2~3日で退院するのが普通です。通常、入院1日目は採取前の麻酔などに関する検査を、2日目は骨髄採取、3日目は麻酔から覚めた身体を回復させるため歩行等をしていただき、4日目に退院となります。安全な骨髄採取を行なうためには入院は欠かせません。

Q 採取する病院の選択はできますか

A ドナーが「骨髄提供に関する同意書」に署名されますと、財団が認定した経験豊富な施設の中から骨髄採取病院を決定します。どこの病院でも採取可能という訳ではありません。できるだけドナーの方のご希望に添うようにいたしますが、なんらかの事情によりご希望外の施設となることもあります。なるべくドナーの方の居住地に近い施設を選びます。採取施設は患者さんの移植病院とは別の病院です。

コーディネーター開始数	2820件
ドナー適格性検査(3次検査)実施数	1669件
最終同意確認数	474件
提供(採取)実施数	368件

ドナーコーディネーター集計

1996年1月~12月

昨年1年間のコーディネーター開始から移植に至った件数です。ただし、途中で中止になったケースを含めています。進行状況にはズレがあります。最終同意後の中止は88例(患者側の理由で中止66例、ドナー側の理由で中止22例)その他は97年に提供(採取)されています。

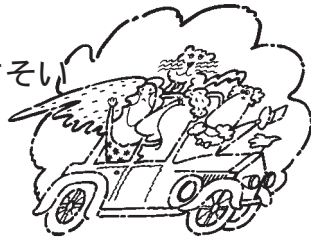
INFORMATION

ドナー登録者で51歳になられたり、何らかの理由でドナー登録を取り消される方で「骨髄バンクニュース」の送付を引き続き希望される方は、財団事務局までご連絡下さい。

ご参加ください

97全国大会
開催のおさそい

12/6^土
13:30 ~ 16:30



骨髄バンク事業を推進するために、全国大会を本年も12月の「骨髄バンク推進月間」に開催します。パネルディスカッションやアトラクションを予定しています。どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしています。

会場 / 東京都「江戸東京博物館」大ホール

東京都墨田区横網1-4-1
(JR両国駅より徒歩3分)

参加無料

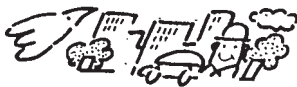
お問合せは財団まで
TEL.03-3355-5041

写真は 96全国大会



全国一斉街頭キャンペーン同時実施

全国大会にあわせて12月6日(土)12時前後「全国一斉街頭キャンペーン」を行ないます。各都道府県の主要都市駅頭や繁華街で骨髄バンクへの理解とドナー登録を呼びかけます。1日も早い110万人ドナー登録をめざして、あなたの地域でご参加ください。(一部地域は12月7日(日)に実施します)



pinning up

中国四国地区骨髄バンク推進連絡会議

平成10年2月13日島根県松江市で中国四国地区骨髄バンク推進連絡会議を開催します。前回の推進連絡会議の広島市に続き、今回は山陰で初の開催です。この会議を契機として骨髄バンク事業推進の大きな原動力になることが期待されます。中国四国地区の行政、骨髄



関東甲信越会議

データセンター、ボランティア団体、地区普及広報委員の方々の積極的な参加をお待ちしております。なお、関東甲信越地区は7月11日に東京都で、東海北陸地区は10月24日に金沢市でそれぞれ開催されました。

ニフティ株式会社のご協力により

11月中旬からパソコン通信(NIFTY-Serve)で、パンフレット「チャンス」の内容をご覧いただき、ドナー登録申し込みができるようになりました。なお、PC-van、Peopleにも骨髄バンクコーナーを設置いただいております。

ホームページを開設します

仮開設12月6日、来年1月本格開設の予定で、骨髄バンク公式ホームページを開設します。財団紹介はもとよりドナー登録申込み受け、Q & A、最新の各種データ、イベント紹介、用語辞典、関連リンク等のコーナーを予定。皆さんのご意見・感想により充実させていきます。



INTERNET

住所変更 しました

財団へのお問合せは下記へお願いします

東京都新宿区新宿2丁目13-12
新宿ISビル8階
TEL 03-3355-5041
FAX 03-3355-5090

サポーター募集

骨髄バンクの機能を本格的に発揮させるには、多くの資金が必要です。骨髄バンクのサポーターや賛助会員として、善意のドナーと骨髄バンクを支えてくださるよう呼びかけをしています。個人、企業グループで骨髄バンクを応援してください。お振込み先は下記の通りです。

サポーター1口 1,000円(何口でも)
賛助会員 年 100,000円(法人団体)
10,000円(個人)
郵便振替口座番号 00130-2-609313

本紙は、日本赤十字社のご協力により、すべてのドナー登録者の方に送付しております。送付を希望されない方や、住所、氏名の変更のあった方は、登録先の骨髄バンクデータセンターへお知らせ下さい。

日本小型自動車振興会から補助
今年度も、普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットは「オートレース公益資金」の補助により発行しています。

編集後記

NMDPとの国際協力による骨髄移植第1例に引き続きすでに4例が行なわれました。患者さんに生きるチャンスが確実に広がっています。11号編集にご協力くださいました皆様、ありがとうございます。ますますのご活躍をお祈りいたします。今年度のAC(公共広告機構)のCMに、女優の吉永小百合さんがナレーターとして出演してくださいました。本当にありがとうございます。ホセ・カレーラス氏の記者会見の一言、「医療スタッフの思いやり、支えがあったからこそ健康を回復できた。これからも私たちは医療現場の方々と力をあわせて頑張っていきたい」と思っています。



お問い合わせ・資料請求は

フリーダイヤル

120-377-465

日本骨髄バンク(JMDP)